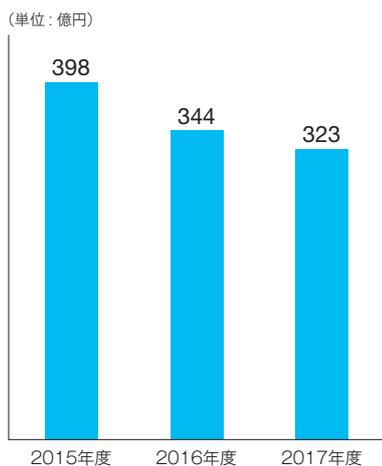


2017年度決算について

損益の状況

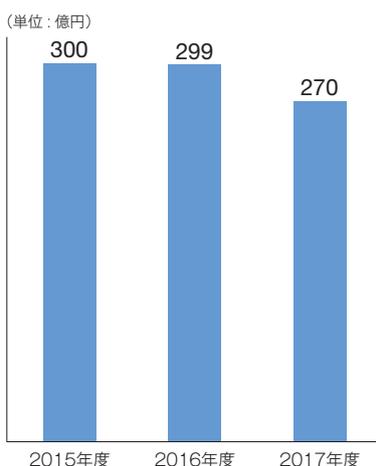
コア業務純益

323億円
(前年比 △21億円)



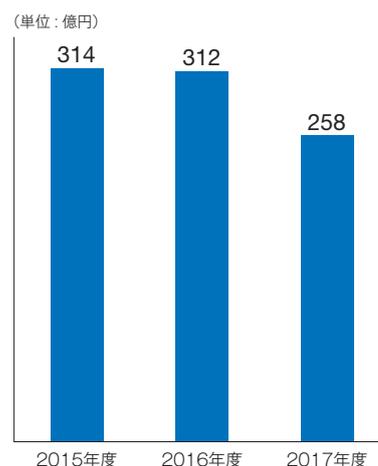
当期純利益

270億円
(前年比 △29億円)



親会社株主に帰属する当期純利益

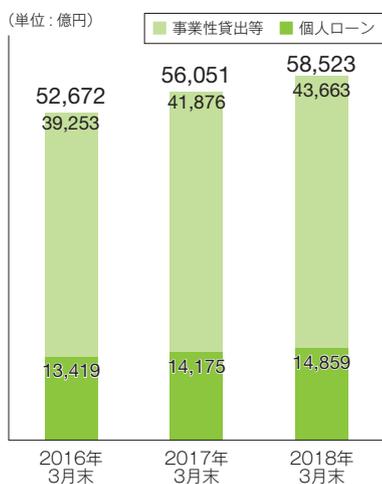
258億円
(前年比 △54億円)



貸出金の状況

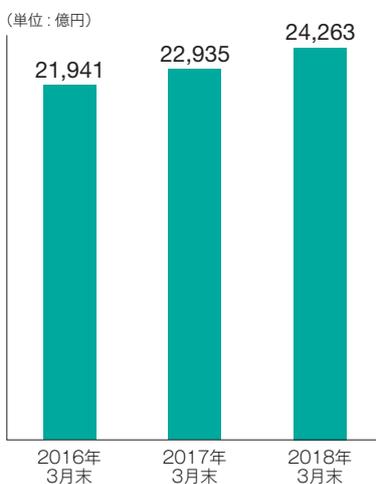
貸出金残高

58,523億円
(2017年3月末比 +2,472億円)



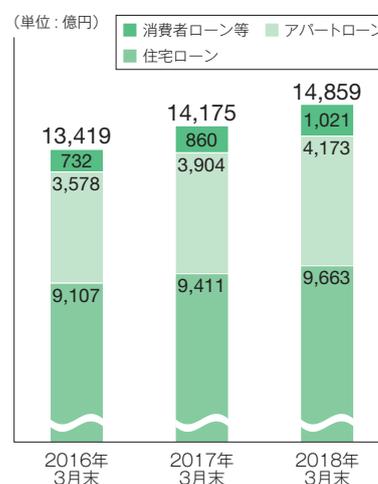
中小企業向け貸出金残高

24,263億円
(2017年3月末比 +1,328億円)



個人ローン残高

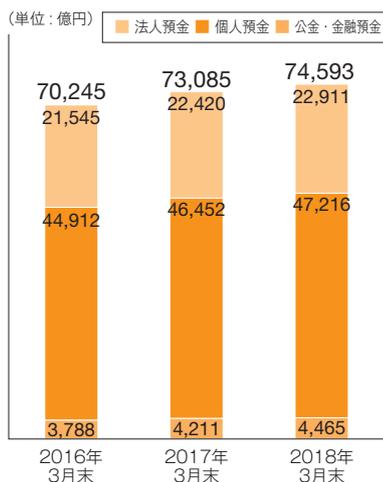
14,859億円
(2017年3月末比 +684億円)



預金等の状況

預金等残高

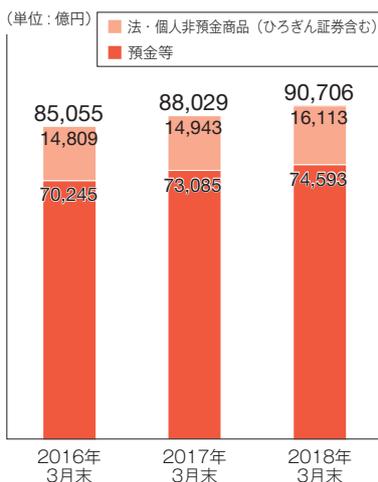
74,593億円
(2017年3月末比 +1,508億円)



※ 預金等は、譲渡性預金を含んでいます。

法・個人預り資産残高 (ひろぎん証券含む)

90,706億円
(2017年3月末比 +2,677億円)

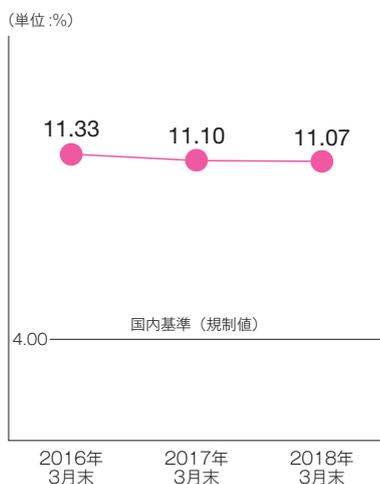


※ 預金等は、譲渡性預金を含んでいます。
※ ひろぎん証券の非預金商品残高は、時価ベースです。

自己資本比率の状況

連結自己資本比率

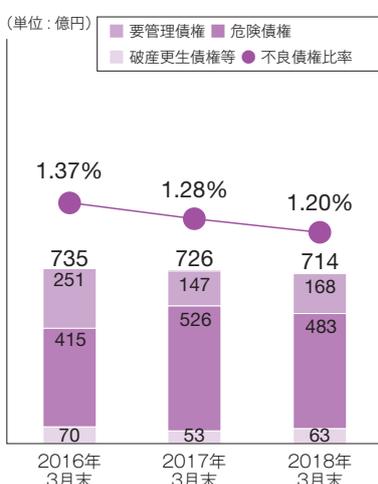
11.07%
(2017年3月末比 △0.03ポイント)



金融再生法開示債権額の状況

不良債権比率

1.20%
(2017年3月末比 △0.08ポイント)



※ 金融再生法開示債権額は、単位未満を四捨五入して表示しています。

用語解説

コア業務純益

一般企業の「営業利益」に近い「業務純益」から特殊要因で変動する「一般貸倒引当金繰入額」と「債券関係損益」の影響を除いたものであり、より実質的な銀行本来の業務による収益力を表しております。

「コア業務純益」= 「業務純益」+ 「一般貸倒引当金繰入額」- 「債券関係損益」

自己資本比率

銀行が保有する資産に対する自己資本の割合で、経営の健全性・安全性を表す重要な指標です。国内基準対象行には4%以上であることが義務づけられています。

不良債権比率

金融再生法に基づく「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」の合計額の、銀行の与信額全体(「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」に「正常債権」を加えたもの)に占める割合として表されます。